



限りある資源を活用する工夫

芋つるの活用

芋つるのきんぴら



芋つるリース



実践のひとつはサツマイモのツルの活用です。園内で芋掘りをした後、たくさんの芋ツルが残ります。これをこどもたちの前で甘辛く煎り付けてきんぴらにしました。こどもたちはもちろん、大人も焼き芋以外に食べられる部分があるという新しい気づきがありました

5歳児…玉ねぎの皮を使った染色



使い切る工夫の活動として、5歳児は通常は廃棄される玉ねぎの皮を使って、手ぬぐいを染めました。思い思いに絞りの模様を入れた手ぬぐいを、厨房や各家庭から集めた大量の玉ねぎの皮と一緒に大鍋で煮ていきます。出来上がった世界に一つだけの手ぬぐいは、愛着がわき一人ひとりの心の支えとなります。染め上がりの鮮やかな黄色が、科学の扉を開くかもしれません。

友達とお揃いという気持ちでクラスの結束を深めます。

お揃いの手ぬぐいを身につけて、生き生きとリレーに臨む姿は、クラスの結束の深まりを感じます。

手ぬぐい染は、5歳児になったらできる事として子どもたちの憧れの象徴にもなっています

雨水タンクの設置

雨水タンクの活用、コンポストの設置を行うことで、自然と共生し**食べ物 (Food)**
エネルギー (Energy) **福祉 (Care)** を
できる限り自給循環させる「サステイナブル
(持続可能) な生き方」を経験します。



園内に設置した、
雨水タンクは、雨水をためて、作物の水やりに活用する経験が、自然との共生について考え、持続可能な生き方の一環を知る機会となることでしょう



コンポストの活用…残菜をたい肥に変える取り組み



コンポストは、園庭の葉立ての近くに設置しました。
まいにちの調理で発生する野菜くずや、残菜について、栄養士のお話を聞き
自分達でコンポストまで運ぶと、その重さを感じます。残菜を追加することが日課となって、残菜がたい肥に変化していく様子に気づくこともあるでしょう。
出来上がったたい肥は畑に混ぜ込み、来年の栽培活動に活かすことができます。